

2018年2月期 決算期 (2017年3月1日~2018年2月28日)

決算説明資料



©2018 TOHO CO., LTD.

2018年4月13日(金)



2018年2月期 通期 営業概況

	2017年2月期 (2016年3月～2017年2月)	2018年2月期 (2017年3月～2018年2月)	前年度比	増減率
営業収入	233,548百万円	242,668百万円	9,120百万円	3.9% ↗
営業利益	50,223百万円	47,586百万円	▲2,636百万円	-5.3% ↘
経常利益	51,562百万円	48,645百万円	▲2,916百万円	-5.7% ↘
親会社株主に帰属する 当期純利益	33,252百万円	33,553百万円	300百万円	0.9% ↗

【当期の営業概況】

主力の映画事業において、『君の名は。』『シン・ゴジラ』のパッケージ・ソフト等の2次利用収入の増加や、東宝東和(株)配給作品のヒット作増加により増収となったが、前期における『君の名は。』『シン・ゴジラ』の製作・配給の利益に及ばず、減益。

演劇事業では『レ・ミゼラブル』『レディ・ベス』『RENT』『TENTH』などの話題作が盛況となり、増収増益。

不動産事業では所有物件の空室率が低く堅調に推移。道路事業の好調により、増収増益。

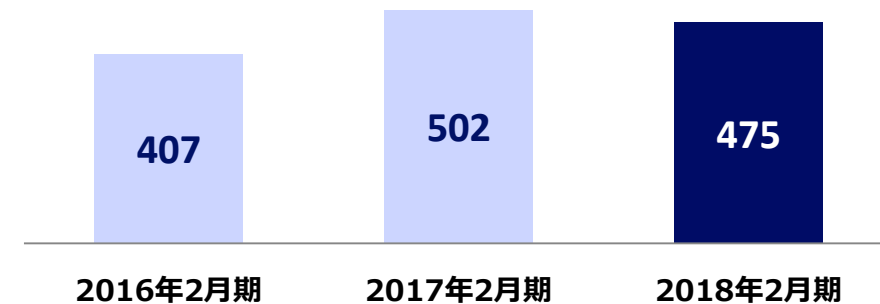
その結果、通期として営業収入と親会社株主に帰属する当期純利益において過去最高、営業利益・経常利益では歴代2位を達成。

営業概況3力年比較

営業収入



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

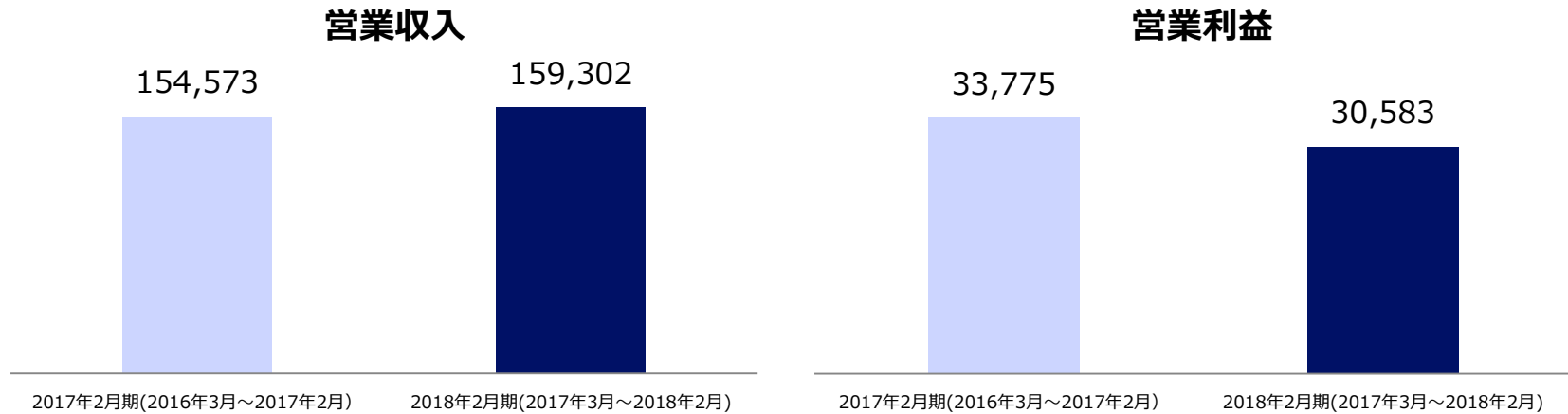


(単位：億円)

セグメント別業績一覽

営業収入 (単位:百万円)				営業利益 (単位:百万円)		
	2017年2月期 (2016年3月~2017年2月)	2018年2月期 (2017年3月~2018年2月)	増減率(%)	2017年2月期 (2016年3月~2017年2月)	2018年2月期 (2017年3月~2018年2月)	増減率(%)
①映画事業	154,573	159,302	3.1% ↑	33,775	30,583	-9.5% ↓
映画営業	46,188	45,618	-1.2% ↓	15,279	11,671	-23.6% ↓
映画興行	79,025	75,640	-4.3% ↓	11,001	9,715	-11.7% ↓
映像事業	29,359	38,043	29.6% ↑	7,494	9,195	22.7% ↑
②演劇事業	15,586	15,973	2.5% ↑	3,268	3,297	0.9% ↑
③不動産事業	61,442	63,258	3.0% ↑	16,830	17,368	3.2% ↑
不動産賃貸	31,371	29,541	-5.8% ↓	13,728	13,230	-3.6% ↓
道路事業	20,254	23,338	15.2% ↑	2,169	3,151	45.3% ↑
不動産保守・管理	9,816	10,377	5.7% ↑	932	986	5.8% ↑
④その他事業	1,946	4,134	112.4% ↑	135	95	-29.4% ↓

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 映画営業事業では、アニメシリーズ（ドラえもん・名探偵コナン）がシリーズ最高成績を更新、『ポケット・モンスター キミにきめた！』『メアリと魔女の花』等も大ヒットし、実写作品も当社幹事作品『君の膵臓をたべたい』や『DESTINY 鎌倉ものがたり』が興行収入30億円を突破。『怪盗グルーのミニオン大脱走』『SING／シング』『ワイルド・スピード ICE BREAK』等の東宝東和(株)配給作品も業績に貢献したものの、前年に大ヒットした『君の名は。』『シン・ゴジラ』といった利益貢献度の高い自社幹事作品が少なく、減収減益。
- 映画興行事業では、上記の当社グループ配給作品に加えて『美女と野獣』『パイレーツ・オブ・カリビアン／最後の海賊』『スター・ウォーズ／最後のジェダイ』（ウォルト・ディズニー）等の大ヒットがあったものの、前年ほどの好成績には及ばず減収減益。
- 映像事業では、パッケージ事業で『君の名は。』『シン・ゴジラ』の販売が業績を大きく牽引。アニメ製作事業では映画『GODZILLA 怪獣惑星』や『名探偵コナン から紅の恋歌（ラブレター）』等に製作出資し、出版商品事業では『名探偵コナン から紅の恋歌（ラブレター）』、『忍びの国』等のパンフレット・キャラクターグッズが好調で、増収増益。

映画 - 通期 稼働作品 -

東宝(株)配給作品（興行収入30億円以上）

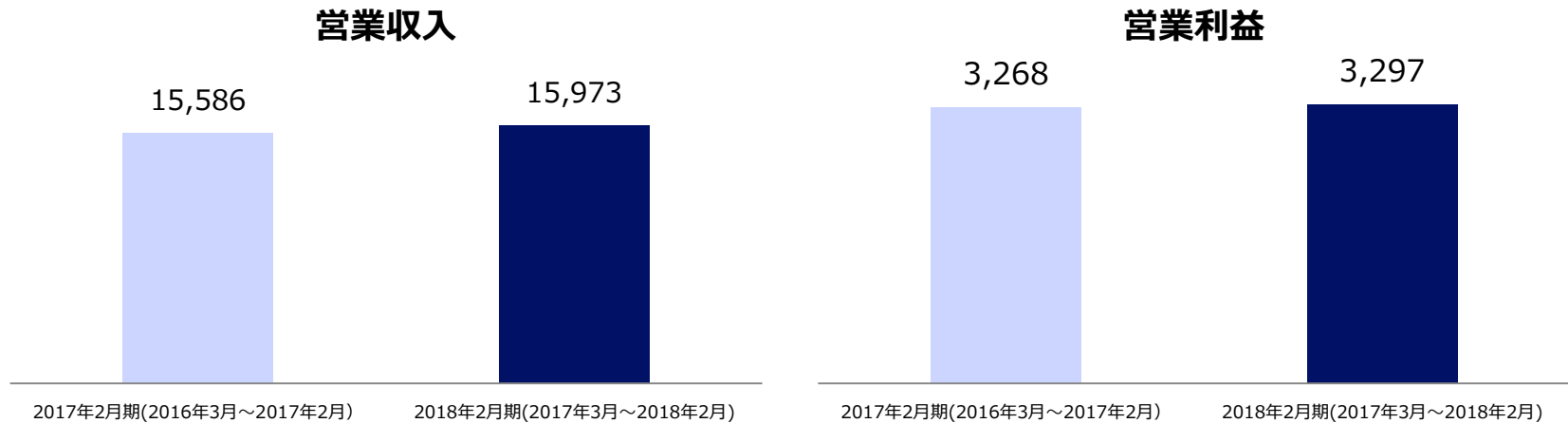
作品名	公開月	興行収入
名探偵コナン から紅の恋歌（ラブター）	2017年4月	68.9億円
映画ドラえもん のび太の南極カチコチ大冒険	2017年3月	44.3億円
劇場版ポケットモンスター キミにきめた！	2017年7月	35.5億円
君の膵臓をたべたい	2017年7月	35.2億円
メアリと魔女の花	2017年7月	32.9億円
DESTINY 鎌倉ものがたり	2017年12月	31.7億円

東宝東和(株)配給作品（興行収入30億円以上）

作品名	公開月	興行収入
怪盗グルーのミニオン大脱走	2017年7月	73.1億円
SING／シング	2017年3月	51.1億円
ワイルド・スピード ICE BREAK	2017年4月	40.5億円

（興行収入は2018年3月末時点）

セグメント別業績【演劇事業】



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 帝国劇場では『Endless SHOCK』(3月公演)が全席完売、日本初演30周年記念となる『レ・ミゼラブル』が3か月のロングラン公演で大入り。新キャストを迎え3年ぶりとなった『レディ・ベス』(10月～11月公演)も幅広い観客層を動員し、『ジャニーズ Happy New Year アイランド』(1月公演)が完売するなど好調に推移。
- シアタークリエでは、『ジャニーズ銀座2017』(4月～6月公演)が完売、2年ぶりの再演『RENT』(7月～8月)も大盛況。『ダディ・ロング・レッグズ ～足ながおじさんより～』(11月公演)、『TENTH』(1月公演)等、バラエティに富んだ作品を提供。
- 日生劇場では、A.B.C-Z主演『ジャニーズ伝説2017』(10月公演)が全席即日完売。日本初演50周年の記念公演となった『屋根の上のヴァイオリン弾き』(12月公演)も大盛況。EXシアター六本木では当社初の「映画と舞台のコラボレーション」という新しい試みに挑戦した『あさひなぐ』(5月公演)が大ヒット。社外公演の『レ・ミゼラブル』(8月～10月公演)、『Endless SHOCK』(9月公演)等も好調に推移し、演劇事業全体として増収増益。

演劇事業 - 主要稼働作品 -



2017年5月~7月帝国劇場公演
『レ・ミゼラブル』



2017年10月~11月帝国劇場公演
『レディ・ベス』



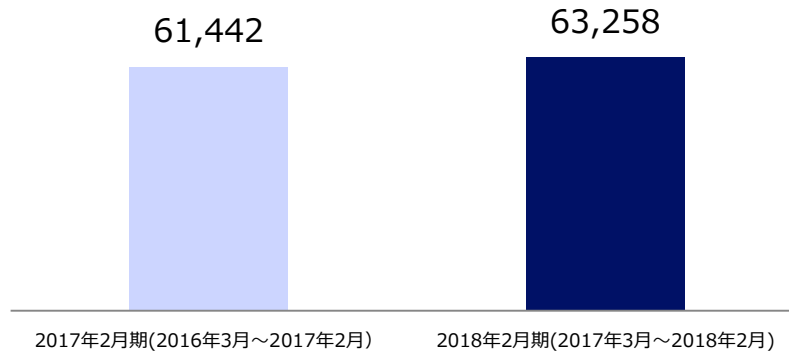
2017年7月~8月シアタークリエ公演
『RENT』



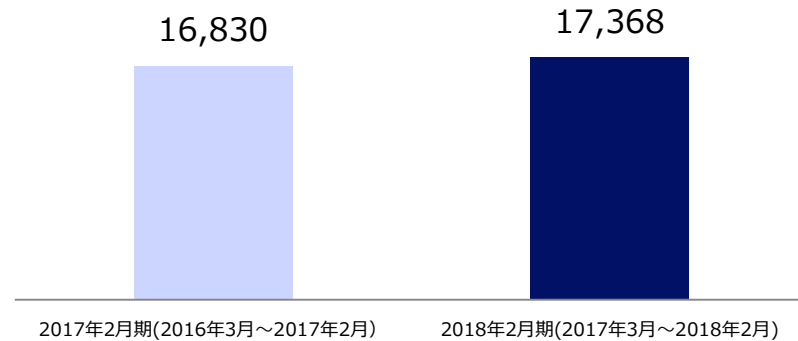
2017年12月日生劇場公演
『屋根の上のヴァイオリン弾き』

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

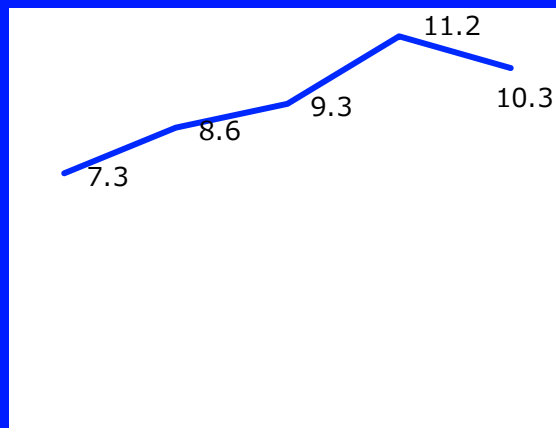
業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件はほぼ空室なく高水準に稼働するも、東宝不動産(株)を吸収合併したことによる統合費用の一次的な増加や日比谷シャンテのリニューアル工事等の影響もあり前期に及ばず、減収減益。
東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、積極的な営業活動により、高速道路をはじめとする維持作業・補修工事の受注拡大に努めるとともに、原価管理の徹底によるコストの削減、業務の効率化による収益性を高め、大幅な増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注の開拓とコスト削減に取り組み、増収増益。

経営指標の推移

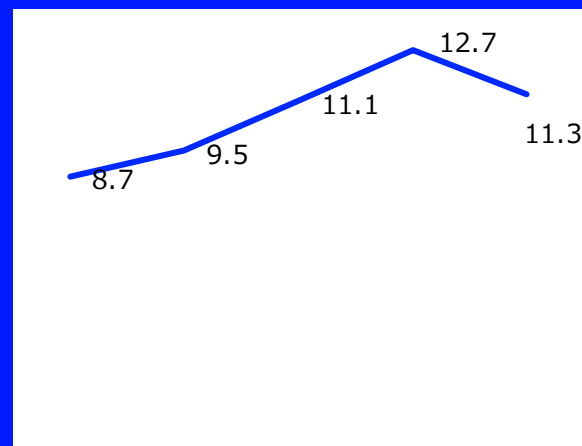
	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2014年2月期	7.3	8.7	14.4
2015年2月期	8.6	9.5	15.4
2016年2月期	9.3	11.1	17.7
2017年2月期	11.2	12.7	21.5
2018年2月期	10.3	11.3	19.6

自己資本 当期純利益率
(ROE)



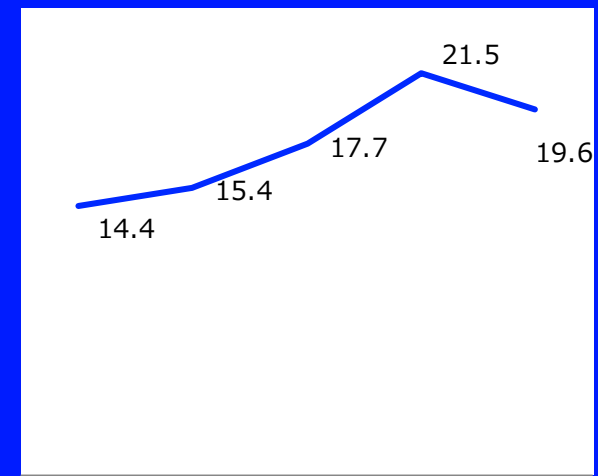
2014年2月期 2015年2月期 2016年2月期 2017年2月期 2018年2月期

総資産 経常利益率
(ROA)



2014年2月期 2015年2月期 2016年2月期 2017年2月期 2018年2月期

売上高 営業利益率



2014年2月期 2015年2月期 2016年2月期 2017年2月期 2018年2月期

(単位: %)

MOVIE LINE UP



5月18日（金）ロードショー

2016年に大ヒットを記録した『後妻業の女』の鶴橋康夫監督がおよそ40年間映画化を熱望した注目作！女性を悦ばせる裏稼業、“のみとり”となってしまう江戸のエリート藩士をめぐる、痛快人間喜劇！

『のみとり侍』

原作：小松重男『蚤とり侍』（光文社文庫刊）

監督・脚本：鶴橋康夫

出演：阿部寛 寺島しのぶ 豊川悦司 斎藤工 風間杜夫 大竹しのぶ 前田敦子 松重豊 桂文枝

©2018「のみとり侍」製作委員会



5月25日（金）ロードショー

2014年の連載開始後たちまち話題となり各マンガ賞を賑わせた人気コミック、遂に映画化！ケガで陸上の夢を絶たれた女子高生・あきらが恋に落ちたのは、さえない45歳のファミレス店長・近藤。不器用だけれども真っ直ぐな想いを描いた、あなたの胸を打つ一作。

『恋は雨上がりのように』

原作：眉月じゅん『恋は雨上がりのように』（小学館「週刊ビッグコミックスピリッツ」連載）

監督：永井聡 脚本：坂口理子

出演：小松菜奈 大泉洋 清野菜名 磯村勇斗 葉山奨之 松本穂香 山本舞香 濱田マリ 戸次重幸 吉田羊

©2018映画「恋は雨上がりのように」製作委員会 ©2014 眉月じゅん／小学館



6月8日（金）ロードショー

『火花』『君の膵臓をたべたい』などの話題作を抑え2016年 第13回本屋大賞を受賞した小説が待望の映画化。ピアノの一音に森の匂いを感じ、調律師の世界に魅せられていく新米調律師の成長を描いた感動作。

『羊と鋼の森』

原作：宮下奈都『羊と鋼の森』（文春文庫刊）

監督：橋本光二郎 脚本：金子ありさ 出演：山崎賢人 鈴木亮平 上白石萌音 上白石萌歌／三浦友和

エンディング・テーマ：「The Dream of the Lambs」久石譲×辻井伸行

©2018「羊と鋼の森」製作委員会

STAGE LINE UP



5月～6月 帝国劇場公演
『モーツァルト！』



4月～6月 シアタークリエ公演
『ジャニーズ銀座2018』



6月～7月 シアタークリエ公演
『シークレット・ガーデン』



5月 日生劇場公演
『シラノ・ド・ベルジュラック』

業績予想・配当予想

■ 2019年（平成31年）2月期連結業績予想（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

（%表示は、通期は対前期増減率）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
2019年2月期(予想)	229,200	38,000	39,800	26,300	145.75
前期実績増減率 (%)	-5.6% ↓	-20.1% ↓	-18.2% ↓	-21.6% ↓	
(ご参考) 2018年2月期実績	242,668	47,586	48,645	33,553	185.95

■ 配当予想

当期の業績は、歴代最高記録だった前期に比肩するレベルで推移したため、前期と同額の1株当たり45円といたしました。
なお、次期（130期）の配当金につきましては、年間配当金の基本的な水準25円を35円に改め、中間17.5円、期末17.5円を予定しております。

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2019年2月期(予想)	—	17.50	—	17.50	35.00
(ご参考) 2018年2月期実績	—	12.50	—	32.50	45.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社
総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303